

令和3年度エゾシカ対策事業（案）

釧路湿原生態系維持回復事業計画（第1期）に基づき、令和3年度は以下の事業を実施する予定。

1. 捕獲及び生息状況モニタリング

<右岸堤防地区>

捕獲3年目のサケマス捕獲場分岐の捕獲効率は低下し、捕獲2年目の土砂堆積場の捕獲効率は上昇したが、2地点とも給餌量が年々増加して費用対効果が悪くなっている。高層湿原への影響の低減し、通年湿原を利用するエゾシカを捕獲するためには、当該地区で捕獲地点を変えて継続して捕獲することが望ましいと考えられる。

今年度の赤沼周辺でのシカ誘導路の設置検討の結果を踏まえ、試験捕獲の実施を判断する。赤沼での試験捕獲の実施が難しい場合は、既存の2地点での捕獲の継続を検討する。

<達古武地区>

令和元～2年度は誘引なしの自動撮影カメラによる調査を実施し、1～2月の撮影頻度が高く、越冬地であることが示唆された。自然再生事業の植生調査（柵外）の結果、稚樹の樹高成長は続いているが、食痕の割合が増加しており、林床植物も種によって増加や減少が見られ、一概にエゾシカの影響が高まっているとはいえない状況だと思われる。

今年度、自然再生事業でも6～9月に自動撮影カメラ調査を実施し、夏季のエゾシカの生息状況が把握できたが、本事業の調査・解析方法が異なり、比較ができなかった。今後はモニタリング手法の統一を図り、1年を通してエゾシカの利用状況を把握できるように努める。

<コッタロ地区>

推進費研究時（H26～H28年度）からエゾシカの生息状況は減少傾向にあり、令和元年度の捕獲手法検討等の結果からも捕獲の必要性は低いと考える。引き続き、モニタリングを実施してエゾシカの生息状況を把握する。

2. 植生調査

①詳細植生調査

広葉樹林（4地区）において調査を実施し、広葉樹林の植生指標種（案）を選定する予定。また、キラコタン地区に新規設置した植生保護柵内外の植生調査（P）を行い、回復状況を把握するために適切なモニタリング方法について検討する。

②簡易調査（採食圧調査）

高層湿原・低層湿原・湿地林・広葉樹林（全10地区）において食痕指標種を用いて調査を実施する予定。

③冬期痕跡調査に関する検討等

例年と同様に調査を実施する予定 (*P*)。

3. 検討会議

「令和3年度釧路湿原エゾシカ対策検討会議」を2回開催する予定。
現行計画の評価・見直し及び次期計画の改定に向けて議論を行う。